

奈良県支部 広報

■巻頭レポート

東日本大震災による被災地支援 「奈良市災害支援ボランティア」に参加して

日本防災士会奈良県支部 幹事 井上 清

私は、奈良市が募集した災害支援ボランティアとして、平成23年4月27日から5月1日まで、車中2泊、現地活動3日の4泊5日の日程で、奈良市災害ボランティアの一員として、宮城県気仙沼市において活動を行ってまいりました。

この「奈良市災害支援ボランティア」は、奈良市に在住・勤務・在学している方々を対象とした募集でしたが、第1クールから第5クールまでの1クール20名の総勢100名の募集に、150名近くの応募があったそうです。

各クールに2名の市職員が添乗員として乗車し、既に現地入りしている市職員と共に、地元の気仙沼市災害ボランティアセンター職員との調整及び被災者とのコーディネートを担当して頂き、スムーズな活動を行うことができ、参加者全員が満足して帰ることができました。

現地では、岩手県一関市の「千厩(せんまや)農村環境改善センター」を宿泊場所及び活動の拠点として、被災地の気仙沼市西八幡町地区内での活動を行いました。現地に着いた初日と翌日は、海岸から約1キロ離れた、70歳代の夫婦宅において、津波に約2メートル浸水した家屋の床板を取り外し、床どこに溜まったヘドロの除去作業を行いました。心配していた被災者とのコミュニケーションは作業が進むにつれて良好な関係ができ、少しの間ではありましたが共に作業をさせていただいたことで、「将来への励みとなった。」と逆に励まされ、感謝のもと作業を終了することとなりました。

ここで、休憩や昼食時に、被災者のご主人から、地震の発生後の大津波の様子を聞くことができました。地元でも地震の後に、これほどの大津波による被害がでるとは思っていなかったとの事で、第一波に約1.5メートルの波が押し寄せたときは、奥さんの手を引いて近くのJR気仙沼線の軌道敷きへあわてて逃げたそうです。数分後に、第二波の約2メートルの波が押し寄せ、家もろとも浸水したそうです。庭には、がれきや車が流れこみ、数時間後に水位が下がった時、海岸付近から火災が発生し、その火災は三日三晩燃え続けたそうです。



震災後、約1か月半になる今でも、千葉県等に住む息子さん家族とは会っていないそうです。このお宅は、避難所になっている気仙沼市立鹿折(ししおり)小学校の近くであったことから、報道ヘリの映像で家は津波で流されていないことを息子さんも承知していたと、後で聞かれたそうです。今は、息子さんが戻ってきても、家族でゆっくりできる環境でないため、精一杯その場所を作っておられる様子が汲み取れました。

庭には、ご夫婦が新居を構えた時に植えたという、シャクナゲの庭木が、塩水をかぶり、今年は花を咲かしてくれるかと心配されておられました。思い出があり大事している庭木だそうで、片付けが思うように進まない中、遠くまで植木用の土を買いに出かけて植え替えをしたとのことでした。

こうして色々な話を聞き、私自身の日常の仕事を振り返った時、我々の災害対応は、被災者の顔、つまり家庭内のことまで分からないまま事が終わっており、このボランティア活動を通じて違った災害対応の在り方を知ることが出来ました。今回の経験を一時的なものに終わらせることなく、私がかかわる活動や仕事等に有効に活かせたいと考えております。

最後に、今回の災害でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被害を受けられた方々にお見舞い申し上げ、一日も早く街や経済が復興することを願っています。



■連載第二回

災害図上訓練「DIG」を広めよう！

日本防災士会奈良県支部 山口正春

3. DIG 研修会資料の公開

今回私が DIG 研修会で使用したパワーポイントの資料は、参加者が地元ですぐに活用できるように CD にして配付した。また、私がバイブルとして読んでいる小村氏の「DIG マニュアル」も印刷し配付したので、疑問が生じた時に小村氏の考えを確認できるようにした。あとは DIG が出来る地元住民と場所、そして、あなたの「やる気」があれば OK だ。

更に、地元で実施する場合の助っ人として、今回 DIG 研修会の班は参加者の居住地の近くに固めてある。DIG 研修会の実施結果は、井上研修部長にメール送信していただければ支部会員に参考資料として共有できるシステムを用意しているが、まだ、実施結果報告が届かないのが悲しい。



4. ファシリテーターの体験

今回の DIG 研修会で、午前中にファシリテーターとしての私を見てもらった。午後は皆さんの番で、ファシリテーター体験をしてもらうことにした。人の前で話す体験は、必ず地元で実施する時に役立つと信じている。

平成21年度に大阪市で DIG ファシリテーター養成研修会の参加者を募集したところ、50名の定員に280名の希望者がいた。大阪市は関心の高さに驚き、全員受講することにした。1日目の座学は全員が受講できたが、2日目の実習は、70名ずつ4つのグループに分け、4日間かけて実習を実施した。私は、班のファシリテーターとして参加した。

その実習がちょっとおもしろい実習だった。1つの班は8名からなっている。2名ずつペアになり、1時間 DIG 研修会のファシリテーターとしてパワーポイントを活用して進めるのである。人を代えて同じ内容をファシリテーター役、住民役で4回体験することになる。朝9時30分に始まって夕方5時頃には、見違えるようにうまくなっているのに驚いてしまう。みなさん熱心で休憩時間も席を立たず、地元の防災の取り組みの話をしている。

●まとめ

今回の「DIG」研修会で、地図と透明ビニールシートを直接机に固定するのではなく、プラダン（紙ダンボールと同じ形状のポリプロピレン製の中空シート）の上に固定したのは訳がある。この方法は、井上教育研修部長の発案だ。こうすることにより、発表の時に出来上がった地図を即座に前にもって行くことができる。つまり情報の共有化ができる。



また、各班でデジカメを持って街中探検も実施した。防災という視点で街を歩くと 普段気付かなかった「発見」、「気づき」がある。その「発見」、「気づき」を防災マップづくりに生かしてほしい。災害に強い町づくりのきっかけとして、「DIG」を実施し、あなたの町の災害における「強み」、「弱み」を知って欲しい。

では、私たち防災士が求める目標は何なのか？

「大規模地震発生時の想定人的被害を今後10間で半減する。」ために、残された時間はあと5年だ。あと5年で奈良県下39市町村の約200の公立小学校下で住民による「避難所開設訓練」が実施できないであろうか？

その推進役は行政ではなく、もちろんみなさん「防災士」しかいないと思う。

■ 防災研修会「クロスロードゲーム」に48名が参加

日本防災士会奈良県支部 教育・研修部



去る6月5日(日)、午後1時30分より「奈良市防災センター 研修室」において、平成23年度の教育研修の一環として「日本防災士会奈良県支部 教育・研修部」が主催する、「第1回防災研修会」を開催しました。参加者は総勢48名でした。

この研修会は、登録会員相互の資質向上を目的に、計画に基づいて毎年実施しています。今回は「阪神・淡路そして東日本大震災で学んだこと」をメインテーマにし、防災研修会を開催いたしました。

●第一部:「講演会」

講師として「神戸防災技術の会(元神戸市職員)・NPO都市災害に備える技術者の会」の片瀬範雄氏を迎え、「阪神・淡路大震災で学んだこと。そして東日本大震災からの復興を願って。」と題して講演をいただきました。

主な内容は次のとおりです。①阪神・淡路大震災を行政職員として、また一般市民として当時の市民生活や被災したまちの復興計画等の実体験談について。②東日本大震災の被災地の現地調査を実施し、同じ地震災害の被災地である「阪神・淡路」と被害の形態・被災者の生活・被災状況とを比較した結果について。③南海・東南海地震に備えて「自助・共助・公助」の観点から、今、私達は何をすべきか。これらについて熱く語っていただきました。



●第二部:「クロスロードゲーム」

この「クロスロードゲーム」は、防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーションの場を知覚することを目的に実施しました。講師として、「神戸クロスロード研究会理事」で元神戸市職員の浜尚美氏(ファシリテーター)、「神戸防災技術者の会」会員で神戸市水道局東部センター長の青木利博氏(コメンテーター)、第一部の講師である片瀬範雄氏(コメンテーター)、を迎え指導いただきました。

防災に関する取り組みにしばしば見られるジレンマ「こちらを立てればあちらが立たず」を素材として扱いました。参加者が自ら二者択一の設問にYESまたはNOの判断を下すことを通じて、防災を「他人事」ではなく「我が事」として捉え、同時に相互に意見を交わすことをねらいとする集団で行なうゲームです。当日は、参加者全員を5名から7名の班に分けて、真剣な討議を行いました。また、各班の代表者から発表を行っていただきました。



●第三部:「支援ボランティア参加報告」

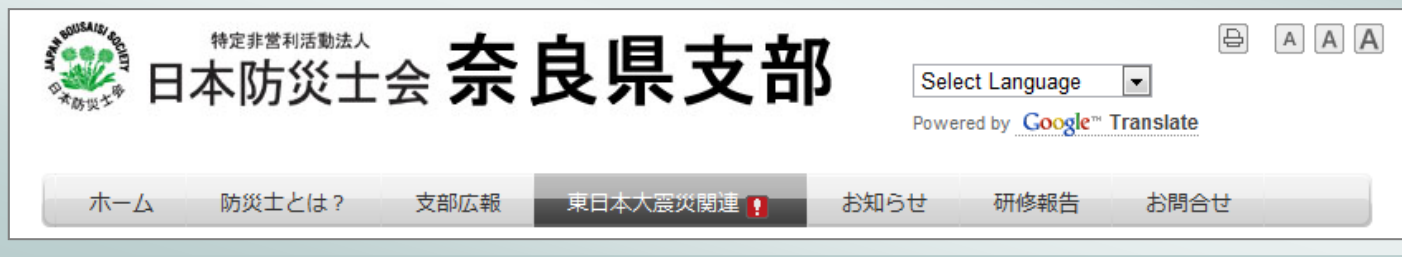
東日本大震災による被災地支援報告を「奈良市防災支援ボランティアに参加して」と題し、教育・研修部長の井上清が行いました。

井上は、報告の途中、被災者の方から聞いた「大津波の時に、夫婦で必死に逃げた様子」を思い出したようで、言葉を詰まらせながらの報告となりました。

そして参加者全員が、自分にできることは何なのかを再度考える一日となりました。



■ ホームページに「東日本大震災関連」情報のページを追加 オフィシャル・ホームページ <http://bousainara.com> にアクセス！



■ 「日本防災士会奈良県支部 第4回総会」開催報告

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉

去る4月24日、「日本防災士会奈良県支部 第4回総会」が開催されました。総会には、仲川げん奈良市長をはじめ、奈良県安全安心まちづくり課課長、奈良市消防局長の出席を賜りました。又本部からは大隅常任理事(滋賀県支部 支部長)が、近隣支部からは大阪府支部の木村事務局長がかけつけて下さいました。

最初に、参加者全員が東日本大震災で亡くなられた方々の冥福を祈って黙祷を行ったあと、「支部長挨拶」「来賓挨拶」「議案の審議」「新規会員の紹介」と続けました。

予定していた議案は全て原案通り承認されましたが、東日本大震災を受けての総会となったこともあり、会員から「奈良県支部として、どういった支援対策を行うのか。」等の意見が出されました。

奈良県支部としては、当面、東北三県の防災士への支援活動として、義援金活動を中心に取り組むことを確認いたしました。また、現地へ行って支援活動に取り組む事ができないのか、という声を受けて、財政上の問題など諸条件が許すならば、現地への支援行動を計画し、場合によっては緊急に会員へ呼びかけることを確認しました。

総会終了後には、木本支部長が「防災士の役割と課題」について記念講演を行いました。

●当日審議された議案

- 第1号議案 平成22年度事業報告について
- 第2号議案 平成22年度会計報告について
- 第3号議案 平成22年度会計監査報告について
- 第4号議案 平成23年度事業計画案について
- 第5号議案 平成23年度予算案について
- 第6号議案 新役員の選出について

●新しく信任された役員

- | | | |
|------|-------|-------------------|
| 支部長 | 木本喜信 | (奈良市) |
| 副支部長 | 中田勇四郎 | (奈良市) |
| " | 木村尚史 | (御所市/J P) |
| " | 奥田英人 | (橿原市) |
| 事務局長 | 植村信吉 | (三宅町) |
| " 次長 | 南上敏明 | (天理市) |
| " 次長 | 奥田 仁 | (香芝市) |
| 会計 | 古瀬博之 | (奈良市/J P) |
| 幹事 | 前川輝男 | (奈良市/広報部長) |
| " | 井上 清 | (奈良市/教育・研修部長) |
| " | 平井紳二 | (生駒市/生駒市ブロック) |
| " | 柏田勝幸 | (田原本町/磯城郡ブロック準備会) |
| 会計監査 | 伊藤東洋雄 | (王寺町) |
| " | 西川隆清 | (三郷町) |
| 顧問 | 中川 徹 | (奈良市) |



■発行日 2011年8月1日

■発行者

日本防災士会奈良県支部 支部長 木本喜信
〒631-0014 奈良県奈良市朝日町 2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5
電話：090-8378-1106
E-mail：bousaishikai_nara@yahoo.co.jp